

## オリビク(オリンピック)広場

6月8日 土曜 朝は珍しく大雨。このお湿りで乾いた空気が少しは緩和した。午後は雨も止み、夕方からは、昨日のオリビク広場へと外出。地下鉄だと、隣接する人民広場の駅からさほど遠くない。

金有美さんのコンサートが開かれる城市音楽館へは、開場の10分前に到着。こちらはスマホはあるが、電話の契約がないので、LINEによく似たWeChatで片山君と連絡をとる。何とか館内の音楽ホール前で合流。大学での時とは違い、大勢の観客が詰めかけていた。賑やかなのは、客の多くが小さい子を伴う家族連れだったから。最初は賑やかで良いと思っていたが、金有美さんが登場してピアノに向かう段になっても、子供たちは一向におしゃべりを止めようとしない。特に片山君と座った中段の後ろの方は、かまびすしい。そこで、「安静！安静！（あんじん）」（あんせいではありません！）と一括。他人様に叱られたことのない子供たちは、びっくりした様子だった。

やがてざわめきは、有美さんがオッフェンバッハの『天国と地獄』を奏で始めると、急に鎮まって行った。このオッフェンバッハというより「文明堂のカステラ」の曲と言った方が良いか。とにかく、その軽快なリズムとメロディーに子供達も大喜び。この姿を見てわかったのは、この日ここに集まった子供たちは、どうやら金さんを招待した馬さんが日頃ピアノを教えている教室の生徒達だったようで、一度聞きだすとすっかり曲の中に入って行くことになった。

コンサートが終わり、金さんはホスト役の方たちと話したりしていた。まあ、我々としては簡単な挨拶位はして出ようと思っていた。段々と人が去り始めた時挨拶に行くと、少しびっくりした様子で、また来てくださったのと歓迎してくれた。私の方は、「そのうち米国で」と言ったか言わなかったか・・・。

ちょうど晩御飯を食べる時間だったが、片山君が「オリンピックの地下に行きましょう」と言うので、立ち寄ることにした。それにしても、このオリビク広場、地上には一部競技場があるものの大体がまっ平な広場が広がっていて、今一つオリンピックの名がついているのがわからない。広場の中央には五輪の立体の構造物があるだけだった。しかもクラスメートらも、ここにある巨大なウォルマートのことを話すのだが、それが一体どこにあるのやら。

階段を、そしてエスカレーターを降りて行くと、地上からは見えなかった巨大なショッピングセンターが見えて来るではないか。そこには件(くだん)のウォルマートも、その他数多くの店が並ぶ商店街もが広がっていた。地下は数階に渡って自然光の入らない商店街となっていて、細長いので、まるで船の甲板から下に降りて行って船底近くまで降りて来たような感覚にとらわれた。専門店

街の一面に、日本人の味覚に近い回転寿司屋があるというので、そこに立ち寄った。帰国が近づいているせいか、今まで日本食は高いと敬遠してきたものを、最近は少し財布のひもを緩めてもいる。寿司は満足な質と量だった。

それにしても、大きなショッピングモールが地下に埋設されているというのも珍しい。今回、調べてみたが詳細はわからずじまい。一番あり得るのは、1970年代前半、中ソ対立が激化した時、戦争の恐怖が高まり、都会には幾つも大規模な防空施設が造られたという。そうした施設が冷戦も終わり、無用の長物と化したために、その再利用としてこうした地下の商業施設が出来たと言う話し。実際、大連駅南方に広がる労働公園には、地下壕だったと思われる通路に商店街が伸びている例もあった。



ネットから入手したオリンピック広場の写真 この地下にショッピングセンターがあるとは！